

## はじめに

名張市・名張市教育委員会では、日常の家庭生活や学校生活、社会生活などでの体験を通して実感された、人権を守ることの大切さや偏見・差別などの社会の不合理をなくしていくことへの思いを表現した人権作品を市民のみなさんから募集しています。

本年度も、小・中学校の児童生徒をはじめ、高校生・高等専門学校生のみなさんから、「人権」に関する作文・標語・ポスター（図画）・フォトを合わせて一万三千五百二十三点もの応募をいただきました。一般の皆さんからの応募は、残念ながらありませんでした。

全体を通して見てみると、あらゆる差別や人権問題の解決のため、家庭生活・学校生活・社会生活での体験や、学習で学んだことをとおして、人権尊重の大切さや、差別をなくしていくための意見、感想が述べられている作品や、また観念的なものに止まるのではなく、自分自身を振り返り、自分の問題としてできることをしていることとする姿勢と意欲が伝わってくる作品が数多く見られました。日ごろの学校、地域等での人権・同和教育の取り組みの成果であると考えられます。

この作品集には、応募いただいた作品の中から、作文十一點、標語十八點、フォト（写真）一點を掲載しました。

なお、ポスター（図画）については、二作品を啓発用のポスター及びティッシュとして活用し、標語については、二作品を啓発用ティッシュに活用します。

この作品集を通して、人権について考えていただくとともに、さまざまな学習の場でご活用いただき、人権意識の高揚と人権・同和教育の一日も早い解決に向けて、一層ご尽力いただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、本年度、作品をご応募くださいましたみなさまに厚くお礼申し上げますとともに、来年度、より多くのみなさまにご応募いただきますよう心からお願いを申し上げます。

## 目次

### 作文

#### 《小学生の部》

○ ドッジボールのこと	(1年生)	4
○ 親切がうれしい	(2年生)	5
○ 大切な人をうしなつて	(3年生)	6
○ 鼻がつぶれていると言われて	(4年生)	7
○ 命をありがとう	(5年生)	8
○ 人権について考えると	(5年生)	9
○ 勇気をふりしぼつて	(5年生)	10
○ 何がおかしいん？	(6年生)	11

《中学生の部》

○僕の兄

(3年生) . . . . . 12

○兄と私

(3年生) . . . . . 14

《高校生・高等専門学校生・一般の部》

○話すことの大切さ ― 私の体験から

(高校1年生) . . . . . 16

標語

《小学生の部》

《中学生の部》

《高校生・高等専門学校生・一般の部》

フォト (写真)

○ふんわり

(高校1年生) . . . . . 19

. . . . . 17

. . . . . 18

. . . . . 18

## ドッジボールのこと

(小学1年生)

たいいくのときに、みんなでドッジボールをしました。ぼくはドッジボールが好きです。なげるのがとくいです。いっぱいあてたいといつもおもっています。

そのときは、ぼくのチームはかっています。あいてのチームは、ともだちがひとりのこっています。ぼくは、がいやからのボールをキャッチしました。

そのともだちをあてようとしたとき、その子がすべってころんでしまいました。

ぼくはそのときころのなかで、「チャンス」とおもいました。そして、その子にボールをあてました。その子はくやしそうでした。ぼくはかちたかったからあてました。そのひのひるから、そのともだちがいないいました。ドッジボールでかなしいことがあったというので、みんなではなしあいました。

こけた子にあてるのは、あかんという子もいました。ゲームなんやから、こけたところにあててもいいやんという子もいました。どっちがいいかはきまりませんでした。

ともだちはずっとないいています。ぼくはゲームなんやから、あてたつてええやんとおもっていたけど、じぶんがあてたんがわるかったとおもえてきました。

そうおもったら、なけてきました。

そうしたら、そのともだちがみんなに、

「こけたとこにあてられたんがかなしいんちがう。」

といました。

ぼくはびつくりしました。

「だいじょうぶつていうてくれへんだんが、かなしかったんや。」

といました。

ぼくは、そのともだちが、「だいじょうぶ」といってほしかったんやとわかりました。

だから、

「だいじょうぶつていわんとごめんな。」

といました。

そのともだちは、

「ありがとう。」

といつてくれました。

ぼくは、それをきいて、ところがほんわかになりました。

これからはぼくも、ところがほんわかになることばを、ともだちにいっぱいいつていこうとおもいます。

## 親切がうれしい

(小学2年生)

「どうしたの。」

男の子にかみの毛をひっぱられてないでいた時、Aちゃんが声をかけてくれました。うれしかった、ひとりぼっちじゃないと思えました。

わたしは、一学きには友だちがあまりいませんでした。二十分休みにはひとりで教室にいて、先生のお手つだいをしたり、先生とお話したりという日が多かったです。二学きになって、せきがAちゃんのとかなりになって、いつの間にかしゃべるようになりました。テストを出しに行こうとしたら、「出でてきてあげるわ。」と言ってくれました。二十分休みにひとりしていると、「いっしょにあそぼ。」とさそってくれて、外でてつぼうをしました。いっしょにじゆうちようをしたり、ちがう学年の教室に行ったりすることもあります。

わたしがふでばこをわすれたとき、Aちゃんが、「かしたるわ。」と言ってくれました。こまっていたときにたすけてくれて、とてもうれしかったです。帰るときになって、ランドセルの中からふでばこが見つかりました。Aちゃんに「ふでばこあったわ。ごめんね。かしてくれてありがとう。」と言ったら、

「いいよー。」と明るく言ってくれてうれしかったです。わたしもほんたいのときには、友だちに親切にしたいと思いました。

わたしがじゅぎょうのとちゆうでちよつとしゃべっていたら、Aちゃんは「しー。」とやさしくちゅういしてくれました。そのまましゃべっていたら、先生にしかられるし、自分のべん強もできません。いっしょにあそぶだけでなく本当にわたしのことを考えてくれるんだなあと思いました。

今までAちゃんとあまりしゃべったことがなかったけど、となりになってみて、Aちゃんがすごくやさしいことがわかりました。Aちゃんに親切にしてもらって、自分も今までもっと友だちに親切にしたらよかったと思いました。これからがんばりたいです。

いろんな子と、いっばいお話したら、もっとその子のいいところがみつかると思います。わたしのことも、もっと知ってほしいです。

## 大切な人をうしなつて

(小学3年生)

ぼくは、お母さん、お父さん、おばあちゃん、おじいちゃん、お姉ちゃん、でくらししています。けれど、とつぜんかなしいことがおこりました。おじいちゃんが、しんでしまいました。その時は、ぼくは、友だちの家に行っていました。帰つてお姉ちゃんにおじいちゃんがかしんだと教えてもらいました。そしてぼくは、とてもかなしくていっぱいなきました。次の日、今までのことを考えてみました。そしてぼくが思ったことは、イタズラとか悪いことをしておかれて、おじいちゃんがいなくなればいいのにと思つたこともあつたけど、おじいちゃんとの思い出が頭に次々とうかんできました。その時、はじめて心のそこからおじいちゃんの大切さが分かりました。その夜は、そのことを思い出してしまつて何回もおきてしまいました。今までは、てれくさくておじいちゃんに「ありがとう」と言えなかつたけどこの作文におじいちゃんへのお手紙を書こうと思つています。

おじいちゃんへ

「おじいちゃんがいなくなつたけどこのこりの家族でがんばっています。今もおじいちゃんのことを思い出すと、なみだが出てきます。おじいちゃんのありがたさが分かりました。学校におくつてもらつたり、外食につれていってもらつたり、買い物につれてもらつたりしりました。その中で一番心にのこっていることは、足のほねがおれている

のにいやな顔一つもせずにはぼくやおねえちゃんをむかえて来てくれたことです。ぼくがまだあそびたいと言うとまつてくれたことがやさしくてうれしかったです。おじいちゃん今まで本当にありがとう。」

おじいちゃんがしんだことをきつかけに、家族にしてもらつていふことを考えてみました。お母さんには、ごはんをつくつてもらつたり、お父さんには、いそがしいのに紙ひこうきや紙しゆりけんを作つてもらいました。おばあちゃんにはお母さんがいないときむかえに来てもらつたりお姉ちゃんには、ひまな時あそんでもらつたりしました。家族がぼくのためにいろいろなことをしてくれてるんだと思つきました。

ぼくが今どは家族のみんなに、おんがえしをしたいと思つています。これからは、料理を手つだつたり、はたけの石ひろいとかをしたいです。

## 鼻がつぶれていると言われて

(小学4年生)

わたしは、二年生の時から、「おまえ、きしよい。」「あつちいけ。」とかいわれました。

わたしは、うまく発音ができない時があります。二年生の時、何を言っているか相手がわかりにくかった時「おまえ、鼻ぺっちゃんこだから、ちゃんとしゃべれんのやろ。」と言われて、いやな気持ちになったけど、知らんぷりしていました。わたしが、かみの毛を切った時も「まる子や。ちびまる子や。」と言ってからかかってきて、とてもいやでした。でも友だちが「だいじょうぶ。気にしやんとき。」と言ってくれて、とてもうれしかったです。でもまた、「おまえ、鼻つぶれてるなあ。おまえなんかあつちいけ。こっち来んな。気もち悪い。」とか言ってきて泣きそうになりました。心の中でとても泣いていたと思います。がまんできなくて、だまって家に帰ったこともありました。でも、その時友だちが心配して家に来てくれたということもおぼえています。

だんだん言われるのは、へってきたけど、四年生になつてからも「おまえ鼻ぺっちゃんこやな。」などと言われることがあります。四月、口の中の手じゅつをして一週間、学校を休みました。口の近くの所が青黒くなっていたので、また、からかわれると思って、学校に行きたくないとお母さんに言いました。おかあさんは、先生に電話をしました。そしたら、先生が、先にクラスのみんなに、わたしが心配

していることをちゃんと説明すると言ってくれたのでおくれて、学校に行くことになりました。行くと、だれにもからかわれなかつたし、「手じゅつ、おわつてよかつたね。」とうれしいことを言ってくれる子もいました。入院していた時もおりづるをおつて、おばあちゃんにとどけてくれた友だちもいました。

わたしは、いやなことがあつてもだまっていました。がまんしていても何もかわりません。おかあさんや先生に言つて、いやなことを言われないうにする方法もあるし、友だちに相談する方法もあります。友だちにいったら、はげましてくれるかもしれないし、いっしょに言った子に言いに行ってくれるかもしれないし、いやなことを言われたら、「いわんといて。」と言うようにしています。友だちにも話してみると、「だいじょうぶ。」とか言ってもらっています。わたしも、「どうしたん。」と声をかけるようにしています。

少しずつだけけど、いやなことをだれかに言うようにしてなくすようにしています。

## 命をありがとう

(小学5年生)

五年生では命について学習しています。いろいろな人に会って、いろいろな事を体験して、いろいろなことを教わりました。

学校の近くに住んでいて、田植えや稲刈りを通して、お米づくりの大変さを教えてくれた神矢さん。宮崎さんも、学校の近くの畑をぼくたちに、貸してくれて、栄養ある野菜をたくさん作らせてくれました。この二人の方には、お米や野菜は、かんたんにはできないのだから、大切にして無だにしていけないんだと教えてもらいました。ぼくは、野菜がにがでだけどのこさないようにしたいです。お米や野菜だけでなく、いろいろな動物の命も、ぼくたちはもらって生きているとN P Oの辻先生に教えてもらいました。牛の皮がふで箱になったり、おちちが牛乳になったりそのまま肉を食べたりと、牛が、いろいろなすがたに変えて、自分たちの生きるために役立っていることを知りました。ぼくたちは、いろいろなものから命をもらっているんだなあと感じました。

そのぼくの命は、お母さん、お父さんからいただいた命です。生まれてから今まで育ててくれました。ときには、命がけの時もあったと思います。命をかけてまでも、ぼくたちのことを守り育ててくれました。時には、ぼくにきつくおこってくれる時もあります。ほめられてばかりじゃここまで育たなかったと思います。保育所の時、ぼくは、よ

くけんかをしていました。その時は、いっしょになってなやんでくれました。楽しい時は、いっしょに笑ってくれます。ぼくは、そんな家族が大好きです。

そんな家族が、悲しい時がありました。ぼくが一年生の時、ぼくには、とても仲のいいところがいました。サッカ一の練習が終わった時に、そのいとこが、事故にあったと聞きました。聞いた時は、びっくりして泣きそうでした。でも、まさか死んでしまうなんて思っていなかったので、ふつうに病院に行ったら、着いた時には、心ぞうマツサージをしていたので「死んじゃうのかな」と思いました。そのうち、心ぞうマツサージが終わってしまつたので「死んでしまつた」と思ったら、涙がいつぱい出てきました。今まで、いっしょに遊んでいたこの子が、急にいなくなつてしまつて、とても、とても悲しかったです。いとこの子のお父さんは、とても悲しくてつらそうにしていたことをおぼえています。ぼくがあんなに悲しかったんだから、そのいとこの子の親は、すぐ、すぐ悲しかったんだと思います。

ぼくは、いろいろな命をもらって生きています。人から動物・植物までみんな支え合つて生きていくんだなと思いました。親からもらった命を大切に、死んでしまつたいとこの分まで、自分の心を強くして、たくましく育つていきたいと思えます。



## 人権について考えると

(小学5年生)

私は、とても反省していることがある。友達関係のことだ。

ある日の休み時間のこと、私の友達、Aちゃんが、「私、相談室に行つてん。」と、言ってきた。あまりに急の事だったから、とてもびっくりしてしまった。「どうして。」Aちゃんはずつにいつも笑顔で、何かの事で悩んでいるようには見えなかった。ふつうに会話していても、困っているようなことは何も言っていなかった。相談室に行くくらいはいつかつたなら、言ってくればいいのに。私は思った。でも実を言うと、私にも経験がある。

私も親しい友達とけんかをし、一か月口をきかなかった。その時、私は、他の友達にも、家の人にも言わず、ふつうにふるまっていた。言わなかったのではない。言えなかったのだ。私の中にも、心配をかけたくない。家や他の子の前ではわすれたいという気持ちがあったからだ。だからAちゃんも・・・、と思うと、Aちゃんのつらさに気付けなかったことが残念だ。Aちゃんが相談室に行くまでに、力になれなかった。

一学期の時、人権に関する仕事をしている、服部先生に話を聞いた。服部先生は、人権について、私達に分かりやすく話してくれた。人は、決めつけるという時がある。Aちゃんは、いつも笑顔だったから、学校生活もうまくいつているんだと、決めつけていた。でも、実さいはちがった。

その他、見方を変える力、想像する力が必要だということも教えてくれた。Aちゃんは、いつもたしかに笑顔だった。でも、ふり返つてみると、休み時間はいつも一人だった。その時私は声をかけることができなかった。もしかしたら・・・、と思うことができなかった。つまり、想像する力がなかったということだ。これからは、どんなさ細なことでも気付き、自分にできる行動をしたいと思う。

どんなさ細なことでも、友達が困っていることにすぐに気付いて行動する事が、少しでもその子の笑顔につながると思うからだ。

Aちゃん、気付けなくてごめんね。でも、このことをきっかけに、Aちゃんとも仲よくしていきたいと思って、声をかけることにした。

Aちゃんに声をかけると、気軽に返してくれた。こんなふうに、Aちゃんといろんな話をしていくことで、Aちゃんのことをもっと知ることができて、仲よくなれると思う。それから、みんなに、明るく声をかけられる人になりたい。そう思うようになり始めた。行動していくことが、みんな笑顔につながると思うからだ。

## 勇気をふりしぼって

(小学5年生)

ぼくは、四年の時、いじめられていた人がいることを知っていました。でも、「いじめはダメだよ。」と言えませんでした。なぜかという、注意をしたら、ぼくもいじめられると思ったからです。

いじめをしている人は「あいつ、うざいな。」と言っていました。そして、「いっしょにいじめようぜ。」と言ってきました。ぼくは、ことわるのがこわくなり、いっしょにいじめをしてしまいました。

何回かいじめをしていると、いつの間にかいじめているのがふつうになっていました。心もどんどん悪くなっていき、ちよつとしたことでおこって、その人をいじめていました。

そうやっていじめを続けていると、いじめが楽しくなつて、ぼう力までふるってしまいました。

ぼう言やぼう力で相手をきずつけ、時には一人に対して数人でいじめをしていました。とてもひどいことをしていました。

ある日、仲のいい友だちに話しかけられました。「きみ、あの子いじめてるん。」ぼくはこう答えました。「うん。いじめてるよ。だつてうざいもん。おまえもいっしょにいじめようぜ。」すると、その子は、「いじめはダメだよ。」と言いました。その言葉がぼくの心につきささりました。そして、ぼくはなぜあの子をいじめたのか、なぜあの子をうざ

いと思うようになったのかふり返りました。

注意をしたら今度は自分がいじめられるかもしれないという気持ちだけで、相手をきずつけてしまいました。自分は、相手にいやなことをされたわけでもないのに、「いじめようぜ。」と言うさそいをことわることができませんでした。だから、ぼくを注意してくれた子はすごいなと思いました。その子は勇気を出して注意してくれたんだと思います。ぼくは、「いじめはやめる。あの子にはあやまる。」と言いました。すると、その子は、「いじめをとめよう。」と言いました。注意するのはこわいけれど、ぼくも勇気を出していじめをとめようと思いました。

いじめをしている子たちに、注意したら、みんなすなおにあやまりました。それからは、みんなのふんいきがよくなり、仲よくなりました。今のクラスは、いじめのない、親切な友だちがいっぱいのクラスです。

## 何がおかしいん？

(小学6年生)

私は、バスケットを習っています。ある日練習試合を見ていると、となりでAちゃんがバスケットをしたそうに座っていました。Aちゃんもバスケットをしたらしいのになあ、私と同じバスケットが好きなんだなあと思っていました。それから、Aちゃんが仲間になりました。Aちゃんは、ドリブルを低くしてみんなと同じようにしんどい練習をしています。私や友達は、コーチが言うことをAちゃんに手話で伝えています。Aちゃんたちと一緒に練習をしているといつのまにか私も少し手話ができるようになっていました。

Aちゃんは、電車の中で手話で話していると、向かい側にいる女子高校生に笑われながら動画をとられたそうです。Aちゃんは、こんなことしよつちゅうあると言っていました。私は、なんでそんなことするんやろと思っていました。Aちゃんは、「みんなに手話のこと知ってほしい」と話していました。Aちゃんという通り、手話を知らない人がいるから、人を傷つけるなあ、手話のことを広めたほうがいいなと思いました。

今年の夏、私は電車に乗っていると、三人で手話をしている子を見ました。そこに、三人の男の人が乗ってきました。そして、手話をしている子の方をむき大きな声で笑ったり、傷つくことを言ったりしていました。一人の子が泣いて、二人の子がなぐさめていました。私は、Aちゃんが

話していた事と一緒に思いました。私は心の中で（何がおかしいん、やめたりよ）と思いました。Aちゃんの時と同じように笑ったりしているから腹が立ち男の人たちに「やめたりよ」と言おうとしたらその人たちは下車しました。

私の心の中でもやもやしたものがああり、Aちゃんにこのことをメールしました。すると、Aちゃんは、「電車であったことをみんなに伝えて」といいました。私はバスケットのみんなに伝えました。人を傷つけたその男の人たちに何でそんなことをするのか聞きたいなどの返事がありました。みんなも一緒に考えてくれてうれしかったです。

私は、クラスの友達にも、Aちゃんがされたこと、私が見たこと、二人の思いを伝えました。みんなは、「手話をしている子が泣いたままその後、どうなったのだろうか心配だ。」「周りの大人の人はケイタイで遊んでいて気づかなかつたのが残念だ」「男の人にやめたりって言えないよなあ、大人やし。」「そうや近くにいた大人の人たちから注意してもらったらいいかも」など真剣に考えて発表してくれました。また、図書室に行った時に手話の本を探して覚えてようとしている子もいて、とてもうれしかったです。私は少しでもだけ差別をなくす行動ができたように思えました。

これから私は、心を傷つけられた人がいたら、自分ができることは何かを考えてから、行動していきたいと思えます。傷つけられた人の所へ行き、その人と話をしたいと思えます。

## 僕の兄

(中学3年生)

僕の兄は、とてもやさしくて頼りがいのある人です。家では宿題を教えてくださいたりします。でも、兄は人とコミュニケーションをとるのが苦手で学校では一人で本を読んでいます。

人と話さないのが原因で相手からも声をかけられなくなり、学年が上がるにつれ無視をされたりして、いじめに発展しました。それがストレスになり、家ではストレスを発散するために手の皮をめくったり、髪の毛を抜いたりしてしまいました。だから兄の頭の髪の毛が一時期横だけ無いこともありました。

兄が六年になった時、女子から「キモイ」とか「黙れ」などの言葉の暴力を受け、かなりのショックを受け、家でも一言もしゃべらないことがありました。兄は相談も苦手なので、先生・親にまで隠して一人で悩んでいたそうです。さらに、筆箱を隠されたり、いろいろなことがあつても乗り越えてきましたが、あることをキツカケに、初めて学校に行きたくないと言い、中一の二学期から学校に行かなくなりしました。

そのキツカケとは、「正露丸」です。兄が昼休みに図書室で本を読んでいる間にカバンの中に入れられていたそうです。兄はもちろん誰にされたかも分からず、戸惑っていたところに、さらに友達が「お前くっさー」とか、「誰やこんな臭いにおいしてる奴は。」とかを言われたらしい

です。それが今まで一番辛かったらしく、一人でベッドで泣いていました。でも僕は何もできませんでした。

僕は兄だけがいじめられる理由が分かりませんでした。兄は確かに友達としゃべらない人だけど、それも個性ですし、いじめの意味がさっぱり分かりませんでした。

兄が僕や親に相談せずに一人で悩んでいたと思うと、今でも胸が痛くなります。

兄がいじめられているのを見て見ぬフリをしていた人もたくさんいたと思います。僕はそれも許せないことです。「自分は関係ない」とか「可哀想だな」と思わず、止めに行く勇気が大事だと思います。確かに、目の前でいじめられていて、止められる勇気がある人は少ないです。しかし、そうやって逃げていけばいじめが減ることはありません。だから、誰でも止められるような心を持つことが大切だと思います。

しかし、実際は僕も図書室で兄がいじめられていても、自分の兄なのに、止めることができませんでした。心の中では、「ごめん」と思います。でも体が動かないのです。どれだけ人権作文でキレイごとを書いて、直したいと思っただけ、いじめを止めるというのは難しかったです。そんな自分を変えたいです。目の前の兄を救えない自分を殴りたいです。

兄は、いじめられていた時期でも、仕返しをしたいとか、やり返すとかは一切考えていませんでした。僕には真似できない優しいさです。僕だったら絶対仕返ししたいと思います。

そういう兄の優しさを尊敬したいです。

兄はいじめていた子の消しゴムを拾ってあげたり、注文弁当をついでと言って返してあげたりしていたそうです。そんな優しさを何故分かってあげられないのか、僕には理解できません。

しかし兄も、「自分も直さなアカン」と言つて、家でコミュニケーションをとる練習を試みたり、学校では仲良しの友達とより多く話をする工夫をして努力していました。そんな時、いじめていた子が、兄の友達に「小林と関わらん方がええで。」と言つたそうです。兄はすごく悲しかったそうですが、その友達は、「小林をいじめんねやつたら僕をいじめろ。何で小林だけをいじめんや。」と言つてくれたそうです。僕はそれを聞いて、涙が落ちかけました。何て勇気のある友達なんだろうと思いました。自分がいじめられてもいいから友達を救うという考えがすごくカッコよかったです。

それから兄はいじめられる事はなく、楽しく学校生活を送っています。兄を救ってくれた友達は横浜へ転校してしまいました。今でもすごく感謝しています。

僕もこれからはキレイごとじゃなく、実行できるようにして、自分を犠牲にしても友達を助けるということが出来る人になりたいです。

## 兄と私

(中学3年生)

私には一つ上の兄がいます。兄は広汎性発達障害を持っています。簡単に言うと、アスペルガー症候群です。兄は現在、特別支援学校伊賀つばさ学園に通っていますが、小学校は同じ学校に通っていました。

四年前まで私たち家族は、奈良市に住んでおり、兄の小学校卒業と同時に、名張市に引っ越してきました。

兄は、人が大好きです。しかし、人の名前を覚えるのが苦手です。コミュニケーションをとるのが苦手です。当時兄は、気になった人には、ハグをしていました。もちろん男女構わずです。低学年のころはそれでもよかったです。兄が、高学年になるとそれは、本人の了解がないと許されません。しかし、そのことを何度説明しても分からないのか、忘れてしまうのか、ハグをしていました。

兄は数字が好きです。計算も得意でした。兄は、国語が苦手です。本もお気に入りの絵本ばかり読んでいました。読んでいるというよりは、勝手に物語を作っていました。だから、文章問題は、大嫌いでした。

兄は、ゲームや体を動かす事が大好きです。ゲームは、やり方を覚えるより、やってみてルールを覚えていました。今もそうです。スポーツもルールを覚えるのは苦手で、体で覚えるので、私も含めて兄の周りの人や友達は、いっっぱい苦労をしていました。それでも兄を仲間外れにはしませんでした。しかも、兄の笑っている顔が好きだと言ってく

れました。

私が小学五年の春、引越しすることはずいぶん前に聞いていたので驚きはしなかったのですが、両親はこれからの兄の進路について何日も話し合っていました。

「また、お兄ちゃんのことだ。」と、私が思っていたある日、両親が、私に、

「お兄ちゃんは、学校が変わってもあの性格やからどこでもやっていけると思うけど、知穂、あんたが心配や。引っ込み思案で、恥ずかしがり屋やし…。大丈夫かな。」

「お兄ちゃんな。悩んだんやけど特別支援学校に通わずことにしたんや。そやから、知穂も小学校卒業したら、中学校も別々になるんよ。」

「小学校も一年間だけやけど、自然の多い小規模の小学校にするか、地元の小学校にするかあんたが決め。」

正直、今までずっと一緒だった兄と別々の学校に通うことと、両親が兄の事だけでなく私のことで悩んでいたことに驚いてしまいました。不安がなかったと言ったら嘘になります。親友と離れ離れになることも嫌でしたし、新しい学校でとけ込めるかという不安でしたから。

それから四年、今では、私も兄もたくさんの友達ができました。心配性である母にも友達ができました。

兄はこの春から高等部に入りました。相変わらず、人は大好きです。人の名前を覚えるのもまだまだ苦手ですが、頑張っています。国語も苦手ですが、漢字は好きなので、漢検に挑戦しています。本も絵本からコミックに変わり、

小説も時々読んでいます。また、私の体育の教科書が大好きで時々借りに来ます。それが良かったのか、興味があるスポーツに関しては、ルールを覚えていきます。サッカー部にも入り週末には練習に出かけて行きます。

兄と母のおかげで障害者の友達もたくさんできました。月に一度、兄や両親と一緒に障害を持っていてる子どもと一緒に遊ぶ会に参加させていただいています。その間は、ボランティアのようなこともしています。しかし、私の方が時間を忘れて夢中になっていることもしばしば…。かえって迷惑を掛けているかも…。

障害者に限らず、障害がない人にも、私のように苦手なことはあると思います。アスペルガーのような障害は、人とコミュニケーションをとることが、苦手だと言われていますが、決してコミュニケーションをとりたくないわけではありません。以前の兄も私の友達が家に遊びに来た時は、一緒に遊んだり、慣れない手つきでジュースやお菓子を部屋まで持ってきてくれました。そのたびに母をハラハラさせていましたが…。私の友達も時々、気にかけてくれました。今でもその友達は、兄も入れて遊んだり、話をしたりしてくれます。

私が言うのも何なんですけど、障害を持つ持たないに限らず、一人ひとりの優しさは、少しでも人の助けになると思っています。兄のまわりには、そんな優しい人たちがたくさんいます。もちろん、私のまわりにもいます。だから、私は

とつても幸せな気持ちになりますし、温かい気持ちにもなります。

お兄ちゃんいつもありがとう。けんかもするけれど、悲しいことや辛いことは半分ずつ、楽しいことや嬉しいことは、二倍になってとつても幸せな気分になります。

## 話すことの大切さ ― 私の体験から

(高校1年生)

人はもろく、とても弱い生き物だと私は思います。人間は他の動物と違い、話すことができ、感情をもち、そして何より考える力があります。なのでふざけて言ったことだとしても、無意識に相手を傷つけてしまうこともあるのです。

私は中学生のとき、一度「いじめ」を経験しました。当時、私はある運動部に所属していました。部員も多く、試合に出るのも弱肉強食の世界でしたが、小さいころから走るのが好きで他の人より少し走るのが速かった私は、試合に出してもらうことが多くて浮かれていました。しかしその時期に同期の部員の一部が、私を無視しはじめました。私もはじめは何とも思っていなかったのですが、日を増すごとに二人、三人と増えていきしまいに私と話してくれるのはごく数人になっていきました。聞こえるような声で悪口を言われたり、仲間はずれにされたこともありました。しかし、部活中のことでしたし、先生や先輩に迷惑をかけたくなって、笑顔でいるようにしました。両親にも相談できず、つらい学校生活が早く過ぎることを願う日々がつづきました。

ある日、部活から帰ってきた私に母から「学校で何かあった？」と聞かれ、私の目から涙がこぼれました。正直、母に聞かれる前に話してしまおうと思ったことは何度も

ありました。ですが親にそんな姿をみせたくなくて、ずっと黙っているつもりでいました。私は誰かに話を聞いてもらいたかったのかも知れませんが。

母に全てを話すと、ほっとしたと言うか、とてもすっきりした気持ちになりました。人に話を聞いてもらうだけこんなにも気持ちの持ち様が違うのかとびっくりしました。母のアドバイスで先生に相談し、話し合い、私をいじめていた子とも仲なおることができることができました。

私がこの経験から思ったことは、「いじめ」にあつたら一人のためこまずに、まずは、身近な人(両親、兄弟、先生)に相談して話を聞いてもらうことだと思えます。一人で落ちこんでいても何も解決しないからです。あと、「いじめ」に発展していくのは相手の短所ばかりみているからだと思うので、相手の短所ばかりみず、長所をみつけ、それを尊重しあうことも大切だと思えます。短所ばかりみていて何も楽しいことはないと思うからです。いじめられている子の味方について一緒に戦ってあげるのもいいのではないかと感じます。



# 標語

## 【小学生の部】

- ・ 他人事と思う気持ち　が　差別の芽  
(5年生)
- ・ 助け合う　仲間がいるからがんばれる  
(5年生)
- ・ 配ろうよ　笑顔　やさしき　思いやり  
(5年生)
- ・ ごめんねと　言う　と心は　晴れになる  
(5年生)
- ・ みつけようひとりひとりのいいところ  
(5年生)
- ・ つながろう　このところ　むきあって  
(5年生)
- ・ やめようよ見て見ぬふりは絶対に  
(6年生)
- ・ 消えませないじめを受けたその思い  
(6年生)
- ・ すてきだね　みんなそれぞれちがうから  
(6年生)
- ・ 感じよう　人の痛みも　喜びも  
(6年生)

## 【中学生の部】

- ・ しらんふり している自分も かがいしやだ (1年生)
- ・ つくろうよ いじめがゼロの 学校を (1年生)
- ・ 気付こうよ 遊びじゃないんだいじめだぞ (1年生)
- ・ 伝えよう 人に感謝と思いやり (3年生)
- ・ 「ごめんなさい」 素直にいえる大切さ (3年生)

## 【高校生・高等専門学校生・一般の部】

- ・ 生まれた場所 誰にとっても 宝物 (高校1年生)
- ・ 困り顔 手をさしのべて 笑い顔 (高校1年生)
- ・ なりたいな 笑顔を配る ひまわりに (高校1年生)

フォト（写真）



高校 1 年生

タイトル：いところ

コメント：旅館にてくつをそろえています。



—人権作品集—

2014年2月発行

名 張 市

名張市教育委員会

この冊子は再生紙を使用しています。